

西畑にある野草・第②報：生駒棚田クラブ

期間 H27年4月1日～H28年3月31日記録

調査結果まとめ

草木(花・実)に虫・鳥が集まり。小動物が食べる。その連関により、生物の多様性が生まれる。
一つの種が減れば来なくなり、虫・鳥も移動が余儀なくなる為、生物の多様性にストップがかかる。
そこで、自然循環の中心の草木の内、草の調査を15年間行なっています。
虫の関係も開始しましたが、まだまだ報告まで至っていません。

1 西畑①～⑥地域総括(本年は⑥の峠地域の一部も調査した)

- 1-1 現存種499種/生駒山系(平群町・生駒市南部 東大阪市 八尾市)783種=64%
64%は一地域としては、本年も西畑が生駒山系では、断トツで一番種が多い
- 1-2 西畑で群生が多い順
ジャノヒゲ●65 シロツメクサ63 ヨモギ58 チガヤ48 ミゾバ46 姫女苑45 スギナ43 メシバ40 オオバコ40
チヂミササ37 イタドリ36 セイタカアキノキリンソウ32 オオイヌフグリススキ31
ジャノヒゲは全地域にある。シロツメクサの群生の中央部分は盛り上がり太陽を浴び光合成を活発に。
昔牧草用に植栽した為増加したと村の人から聞いた
ヨモギも全地域に有るが、夏に背が伸び、花が咲くのは、一般の人には、あまり知らていない。
チガヤはもっと探索すると、もっと上位になるだろう。とにかく強い草だ。以上は 草刈を何度してもOK
- 1-3 各地域にすべて有る群生種
アキメシバ アブラススキ ウマノアシカタ オオバコ カラスノエンドウ クサイチゴ クス ジャノヒゲ スギナ 夕ツボスミレ
チヂミササ テイカヅラ(木本) トウバナ トクダミ ハコベ ヒメジョオン フキ ミゾバ メシバ ヤエムグラ ヨモギ 21種
- 1-4 生駒山系で、西畑しかない種
アサザ キヌガサダケ(昨年有ったが本年×) オモト クルマバナ サワキク トリカブト(×に) ミヤマナルコユリ ヤナギダテ
- 1-5 生駒山系でも希種ですが、西畑に有る種
アキノキリンソウ イヌフグリス ウツボグサ オオトラノオ オキ カワラマツバ クララ コミカンソウ サクラダテ シロバナサクラダテ
ツクバキンモンソウ ツチアケビ ツルリントウ トウダイグサ ノダケ ハエドクソウ ヒメハキ フジバカマ フユハナワラビ
ママコノシスイグイ ミナグサ ヤマルリソウ リントウ 等、他の地域より多い。
- 1-5 外来は他の地区より少ない。
オオバタグサ カラスムギ プタナ キキョウソウ メケンカヤツリ等の進入はまだ。
昨年無かった オオオオナモミ ナヨクサヅジ セイバンモロコシは本年進入
- 1-6 生駒市南部(第2阪名以南)に有って西畑に無い主な種
イヌセンブリ コウヤボウキ シュンサイ サササ タヌキモ ナギナタコウジュ カンゾウ ヒルムシロ
マツムシソウ コラン まだ同定出来ていない。
- 1-7 一年中咲いていた種が有った。セイヨウタンポポ(本では3月～9月なのに) ハルノケシ(4月～7月)
本来春に咲く種が10・11月に咲いていた。オランダミナグサ キツネノホトシロ シロツメクサ ホトケサ等が
目立ち、西畑は山麓と較べ、低温地なので、明らかに地球温暖化の証明している。

2 各地域

- 2-1 ①地域 地域で希少種として 一箇所しかなし: アキノキリンソウ サワキク トウダイグサ ハエドクソウ
フユハナワラビがホツホツと有る ウツボグサが多数有った
ツチアケビが昨年と同様に同じ位置に出現した。
- 2-2 ②地域 住家地域が有るので植栽された種が多い。トリカブトが一株になっていたが退転した。
ヤナギダテ・ホウスキが見つかった
- 2-3 ③地域 棚田クラブの中心作業地 全区域の75%の種が有る。棚田が多様性を育て豊穡さが有る
地域で希少種として、ママコノシスイが新たに出現しイヌフグリス クララ サクラダテ ウボクサ ミナグサ
アサザ・昨年大雨の為、オーバーフローし多くが流出したが、又復活した
タンポポ・「関西」:558株 関西系雑種16株 「西洋系」:101株(全体の15%)
群生は「西洋」の方が多いが、トータルでは「関西」の方が圧倒的に多い
山下生駒市街地では圧倒的に「西洋」だ。タンポポは 開発による地域の
自然環境の指標となるが、西畑は自然のままの要素が強い。
- 2-4 ④地域 神田川と猪柵の区画で一番、面積が少ないが独特な種が多い
ノダケ ウバユリは、しっかりと保護されている。ノダケは一株→16株 に
ウバユリは84株を確認した。
ツチアケビ・昨年突然出現した。本年は出現せず
猪の為、あちこち耕された(人よりもきっちり)その為か、関西系雑種のタンポポが多く出現
- 2-5 ⑤地域 樹木で薄暗く、「帰化」の種が飛来しても育ちにくく、「帰化」が他の地域に比べ少ない。
ヤマルリソウ・山系でも希少で柵隅に、残っていた
ミヤマナルコユリ(生駒山系ではここだけ)及び ツクバキンモンソウ ムラサキニガナ オオトラノオ
ミヤマナルコユリとツルアリトウシが一部の心無い人にヤブコウジ(通称十両)が3㎡ほど盗採されたが
一緒に上記も抜かれてしまった箇所があった。残念。
- 2-6 ⑥地域 暗がり峠近くの棚田へ本年から 時々調査した。③の作業地より、標高100M違うだけで
花の咲く時期がずれている。又①～⑤地域に無い種も多い。
オカヅナミソウ オトコシ カワナデシコ ソクズ ヒナゲシ ワサビ ワレモコウはしっかりと保護されている。

3保全・保護について

上記データにより

①～⑥地域の内、その区域だけの草「在来」種

その内 は保護必要種・53種(すべては別紙一覧表参照)

①地域	アキノキリンソウ	アマチャヅル	ウシクグ	ウツボクサ	カラナデシコ	キジムシロ	キツネノゴト	サワギク
	シハイスマ	ツチアケビ	トウダイグサ	ハエドクソウ	ハダカホウズキ	ヒメハキ	フユイチゴ	ミツバツチケリ
	ヤナキタテ	ヤブムグラ	ヤマジノホトキス	リンドウ				
②地域	イガオナモミ	イシミカワ	オオバキホウシ	// 白花	キカラスウリ	ケチチミザサ	コミカンソウ	スレン
	ニシキソウ	ハス	ホオズキ	ムラサキササギ	メナモミ			
③地域	アカバナ	アサザ	アゼガヤ	アゼナ	イビカスラ	イヌノグリ	イヌホタルイ	イボクサ
	オギ	ガマ	カモシグサ	カラマツハ	カンカレイ	カンスゲ	キカラスウリ	クララ
	ケキツネノホト	コオニクビラコ	サクラタテ	シロヨメ	タンキリマメ	ツボクサ	ツルボ	ナツズイセン
	ノフジ	ミノフスマ	ハナヨウガ	ヒオウキ	ヒシ	フジバカマ	フトイ	ホタルイ
	マコノシリヌグイ	ヤブツルアズキ						
④地域	コヤブタバコ	ノダケ	ミヨウガ					
⑤地域	ショウジョハカマ	ツルアリトウシ	ミヤマナルコユリ	ヤマリソウ	ツクバキンモンソウ			
⑥地域	オカクツナミソウ	オトコエシ	オミナエシ	ロハナサクラタテ	ソクス	トリカブト	フタバムグラ	メドハギ
	ヤマラッキョウ	ワサビ						

①～⑥地域の内、2地域以上に有るが保護必要種

ウバユリ	カラスウリ	全地域にあり	オカラノオ	②～⑤地域	カンアオイ	①②④⑤	
コマツナギ	①②③	ワレモコウ	③ ⑥	チゴユリ	⑤ ⑥	オキリソウ	②～④

なんらかな方法で棚田クラブが保護している種で、苦労が多い

各地域に、そこそこあっても、生駒山系では少なくなっているものも含め、53保護種を策定しました。

今後、保護種として、保護に気をつけたい。

その内、多年草は縄・竹で囲い保護している。① ①～②年草も含まれているが、サクラタテ ニシキソウ等は実が終わると枯れて、同じ位置に生えるとは限らないので、実が成熟するまで、放置必要

⑤⑥地域のミツバチの巣が空っぽが気になる。ミツバチの為に10月11日に咲く秋の花が少ないので

草刈の時期を遅らす工夫の必要性を感じた。

たとえば、セイタカアキノキリンソウで昔はアキノキリンソウがあったが「セオタ」の為に駆逐されたので群生する「セイタカ」は花の時期を考慮必要